

## マンガに見られるあいさつ表現

### Sachiko Omoto

Burnaby North  
Secondary School  
British Columbia, Canada



学習者年齢： 13～14才  
日本語レベル： 初級  
文化面の目的： 人間関係や場面によって変わることばづかいやあいさつの仕方を学ぶ  
あいさつに関して自文化と比較する  
学習する日本語： かんたんあいさつ  
“おはようございます， どうもすみません”

#### 学習目標

学習した日本語のあいさつ表現を復習するとともに、あいさつ表現のバリエーションについて理解を深め、人間関係、場面、意図、文化的背景によって変わる言葉の使い方やあいさつの仕方を学ぶ。また、自国文化における挨拶との共通点を探り、どのような文化にも共通性があることを知るとともに、相違がどのような背景から生ずるのかを考える。

#### 授業の進め方

##### <事前学習>

ひらがなが読めて、簡単なあいさつ表現は学習済みであることを前提としている。

##### <用意する物>

・アニメ（ビデオ）やマンガ（雑誌など）のさまざまなあいさつの場面  
・あいさつ表現のフラッシュカード

##### <進行方法>

1. 学習済みのあいさつ表現をフラッシュカードを使って復習する。
2. 似たようなあいさつ表現（どうも、すみません、ありがとう、など）が含まれたアニメの何シーンをかを見て、人間関係、考え方などによってどのように表現が変わってくるかを話し合う。

3. 3～5人ごとのグループに分かれる。マンガに表れた特定のあいさつ表現に焦点を当て、登場人物間の関係の推理やその根拠、場面状況と使われた表現をあげてみる（食事のときの言葉、人を訪ねたときの言葉など）。
4. グループごとに話し合った内容を発表する。最後に生徒全員の話し合いをまとめながら、教師がポイントを押さえる。
5. 宿題として、日本と自国のあいさつ表現の比較を行い、共通点と相違点を英語で書かせる。

##### <マンガを選ぶときの注意点>

・生徒がよく知っているマンガ、または日本の若者によく読まれているマンガを選ぶ（「セーラー・ムーン」は、カナダのテレビで放映されており、日本語を学んでいなくても生徒たちはよく知っている）  
・大人向けのは避ける。  
・生徒の日常生活に身近で、共通点を探し出しやすい作品を選ぶ。  
・マンガの文章にはくだけた口語表現が多いので、ハンドアウトに使えるものを、学習の目的に応じて教師が慎重に選ぶ必要がある。

##### 人気のあるマンガ：

・チビまるこちゃん  
・ドラえもん  
・ドラゴン・ボール

・魔女の宅急便  
・セーラー・ムーン  
・サザエさん  
・スラムダンク  
・となりのトトロ  
・What's Michael?

##### 生徒の意見・反応

マンガやアニメを使うことで、生徒は授業に興味を持って取り組むようになる。マンガの多くは10代の若者の日常生活を描いており、実際に日本人が読んだり見たりしているものは、教室だけで使われる教科書よりも生徒の好奇心を呼ぶ。

生徒たちが、絵を真剣に見ながら細かく登場人物を分析し、かなり鋭くマンガの場面設定や人間関係を読み取っていたのに驚かされた。What's Michael? に出てくるお見合いの場面を取り上げたとき、生徒の多くが登場人物たちは自己紹介をしているみたいだと答えた。

クレヨンしんちゃんが友だちにあいさつをする場面に出てくる「よ！」というような短い言葉でもあいさつになることを知り、生徒たちはとても驚いていた。